

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■ 9月15日・中田小学校体育館

中田連合自治会「敬老会」雑感

♪ 「人生」は「上を向いて」歩こう ♪

二部最後のプログラム、中田中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏で一気に盛り上がった。望月連合会長も絶賛した吹奏楽団だ。生徒からの言葉。「中田敬老会は私たちにとって一番大きなイベントです。そのため演歌や歌謡曲をたくさん用意しました。私たちが練習する本来の曲とは違うので、難しかったけど一生懸命練習しました。ぜひ聞いて下さい。」会場からは一段と大きな拍手。ピンクレディーから始まり、津軽海峡冬景色、水戸黄門のテーマソング、ズンドコ節など。「川の流れるように」が演奏された時、私は彼らの熱演に感動



感動を与えてくれた中田中の吹奏楽

し涙が出た。周りにも目頭を押さえていた人がいた。アンコールに応え「マツケンサンバⅡ」で締め括ってくれた。指揮者と生徒たちの演奏に大きな拍手が鳴りやまなかった。

会場では75歳以上の招待者の数が、刻々と発表される。11時40分現在343人、その後358人まで増えた。来賓、役員など含めると、会場はほぼいっぱい。式典の最初に挨拶された望月会長から一通の手紙が読み上げられた。80歳の女性からだ。「敬老の日に当たり2000円の商品券を頂きました。好きなお寿司を食べ、これからも元気に長生きしたい。ありがとうございます」。何気ない一枚のはがきが、どのくらい会場の共感を呼んだことだろう。今年も小学生の言葉が披露された。東中田小学校5年・加藤拓夢君の作文は「お年寄りに親切しようと、いつも声をかけたいけど、なかなかできなかった。でも、これからは勇気を出して声をかけていきたい」。



望月榮会長も客席から声援(中央手前)

子供らしい感動を与える一文だった。二部の演芸では吹奏楽やマンドリン演奏、日本舞踊があったが、主催者をお願いしたい。来年は詳しいプログラムをぜひ作ってほしい。ポスター、案内状には載っていたがたった三行では、知りたい題目(曲目)や出演者が分からない。例えばマンドリン演奏で何曲やるのか分からず、延々と聞いているだけ。順番が明記されていれば司会者が2度も大きなミスを犯すこともなかった。「上を向いて歩こう」が演奏された時、良く知られた曲だけに会場で口ずさんぶっている人が多かった。みんなで一緒に歌ったらさぞ楽しかったと思う。もしコーラスならば指揮者は必ずそうしたはずだ。いろいろといいこともあった敬老会。企画・運営された皆さんに感謝しつつ、私感を述べさせていただいた。

(編集委員 宮田貞夫)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

11月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【中田連合文化祭】

日時：11月8日（土）17:00～18:00

11月9日（日）9:30～14:45

場所：中田小学校体育館・グラウンド

内容：体育館にて作品展示。グラウンドにて、模擬店やゲーム、マーチング演奏など。

【みんなで外で遊ぼう！】

日程：11月13日（木）しらゆり公園

時間：10:00～11:30

対象：未就学児親子

費用：無料

内容：公園で楽しい外遊びを行います。

主催：中田連合地区経営委員会

：しらゆり地区経営委員会

共催：中田・しらゆり子育てネットワーク

郷土歴史家

小島貞雄さんを悼む

宮田貞夫

『長後街道繪巻』は泉区中央を横断する形になっている。『泉区郷土かるた』は絵巻で目が届かなかった所を縦断して詠んである。多くの人たちに泉区の概要を知って、郷土の研究のきっかけになってくれれば非常にうれしい。平成5年に作られた、俳句で綴る『泉区郷土かるた』のあとがきに書いた小島さんの言葉である。この2作は小島さんが生涯かけてどうしても書き残したかったものだったに違いない。私はこの2作は、小島さんだけしか書けなかった「傑作」だと思っている。

その小島貞雄さんが8月13日に亡くなられた。享年87歳。中田から偉大な郷土歴史家の一人が消えた。歴史の生き字引小島さんを悼む人は多い。小島さんほど、どんな子細なことでも記録に残し、後世のための史実を残した人はいない。「小島民俗資料館」に収められたものを見れば分かるだろう。

私が中田に移住した昭和39年（1964年）、地元の著名人と言えれば奥津喬雄（市会議員）、山口寅蔵（連合役員）、宮本忠直（御霊神社宮司）、小山敏雄（連合会長・通称お代官）、小島貞雄（郷土歴史）の諸氏であった（以下敬称略）。新住民の私にとっては雲の上の存在で、直接話をできる間柄ではなかった。身近で話ができるようになったのは昭和46年（1971年）、体育指導委員になってからで7年の歳月が経っていた。その後、泉区歴史の会『郷土いずみ』（編集長）、区民会議などやっている中でお会いする機会が増えてきた。とりわけ小島さんにはいろいろ教わり、学ぶことが多かった。

小島さんとの最初の仕事は、中田連合創立10年（昭和52年）を記念し『ふるさと中田』を発行することになり、私が7人の編集委員の1人に選ばれた時。7人の中に宮本、山口、小島さんらがいた。何か夢のような感じがしたのを覚えている。これがきっかけで小島さんの記事を書くことが多くなった。

『郷土いずみ』創刊号に各地の「郷土歴史資料館を訪ねて」の連載のトップに「小島民俗資料館」を取り上げた。続いて連合自治会30周年記念号の座談会「東部分教場で学んだ子供たち」で宮本、森 春義、小島さんらが当時の学校の様子などを語ってくれた。この時、私が司会と構成をやったのだが、文中の敷地内の配置図や机イス、クツ、火の見櫓やぐらなどのイラストは小島さんが書いてくれたもの。それとは別に元原稿に赤ペンで数字の訂正や注釈などびっしり書かれていたのには感心させられた。最近では『中田かわら版』58号（平成24年3月）の人物紹介で小島さんをインタビューした。このとき、最後の2行で私はこう締めくくった。小島さんと握手したとき「太くごつごつした手であったが、温かかった。尊敬する大先輩のこの手のぬくもりを忘れないでおこうと思った」。合掌

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！